

## 美悼賞 小学生の部



諸沢怜央さん  
天神小3年

### レジがかり

おばあちゃんの家はフーメンやだ。お母さんが夜きんの時はほとんど楽しみにして行っている。二年生までは、さらさらいにおつかいのお手伝いだった。

三年生になって、レジの使い方を教えてくれた。おじいちゃんが「ここがたすだよ。」「ここであけるんだよ。」とていねいに教えてくれた。店がいそがしくなってきた時、おじいちゃんが「レジをやってくれ。」と早口に言った。  
「いいよ。」とワクワクしながら言った。計算もまちがえず、お金をあすかり、  
「ありがとうございしました。」とにこにこしながら言った。おつりの時は計算しておきやくさんにわたした。おじいちゃんが「お前はえらい。」と料理しながら言ってくれる。  
また、これからも、レジがかりをしよつと思つた。  
しごとがおわるとおばあちゃんがひやし中かを作ってくれる。ひやし中かを食べると心がとろけるほどおいしい。

## 美悼賞 中学生の部



高橋成美さん  
静岡県富士市岩松中1年

### 祖父の田んぼ

休日の部活動を終えてグーグーと鳴るお腹をかかえて帰ったら家の玄関はしまっている。そっだ。今日は田植えの日。胸がチクリと痛む。向かった田んぼでは弟が同じ年の従弟と田植え機を洗っている。水を張った黒々とした田んぼの上に若緑の細い苗が立っている。また胸がチクリと痛む。

あと三カ月もすればこの田んぼにも青波が寄せる。真夏の太陽の光を浴びて輝く青波が寄せる。それまでに私に何ができるか。水の調節。草取り。肥料に消毒。やることはいっぱいあるのに手伝いたい気持ちはいっぱいあるのに。部活動で毎日帰りは暗くなってから休日も休みなし。祖父の田んぼを守りたいのに。みかん畑のように売られていってほしくないのに。ほとんど車椅子生活になってしまった祖父にもう田んぼに立つ力はない。祖母一人の頑張りには限りがある。会社員の伯父と父にも限りがある。でもなくしたくない。この風景を失いたくない。渡る風の中に。黄金色の穂波が踊る。私は田植えを続けている父に声をあげる。「父さん、私がやること。まだある。」

## 美悼賞 高校生の部



後藤美里さん  
市立前橋1年

### 私の意見

はじめて、戦争というものを見た。白黒写真じゃなくて古ぼけた映像じゃなくて本の中の文章でもない。たつた今おこっているできごととして。はじめて、戦争というものを見た。

私の生まれた日と何十年か前の同じ日は日本はどんな気持ちだったんだろう。8月15日。日本と世界には、もう同じ日はいらないし、きてほしくないけど。また新しく、「はじまった日」と「終わった日」ができました。もうすぐ、私の誕生日。すぐくうれしいけど。きつとすぐく哀しかったと思う。ただなぜか「記念日」の日。テレビで見た景色。本当はそんなの知らなくてよかつたのに。おこらなければ見なくてすんだのに。私にはじめて、戦争というものを見た。

問い合わせは生涯学習課 890 5825へ。